

VR映像《威風堂々 第一番》

～反復と変化を聴き取ったり感じ取ったりして、楽曲全体を味わおう～

授業者 附属池田小学校 石光政徳

1. 指導内容

[共通事項] 反復と変化(三部形式)

[指導事項] 鑑賞(1)鑑賞ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし
曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

2. 単元名 反復と変化を意識して《威風堂々 第一番》を聴こう

3. 対象 附属池田小学校第5学年東組(35名)

4. 教材名 エドワード・エルガー 作曲《威風堂々 第一番》

5. 単元目標

・知識及び技能に関して

反復と変化について理解して、楽曲全体を味わい、その味わいを根拠をもって言葉で人に伝えることができる。

・思考力、判断力、表現力等に関して

反復と変化を知覚し、それが生み出す特質を感受し、楽曲全体の味わいにつなげる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

反復と変化に関心をもち、意欲的に楽曲を聴く。

6. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

① グローバル市民の項目(内容)

主体的な人(これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に取り組む姿)

② グローバル市民と学習との関連

第5学年における音楽科では、音楽の構成要素として、形式、強弱、調性、速度、リズム等を学習した。これまでの学習を基にして、《威風堂々 第一番》では音楽の構成要素の何がどのように反復、変化しているのかを知覚して、そのことによって生み出される特質を感受する場を設定する。そして、単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連を図ることによって《威風堂々 第一番》の反復と変化の知覚・感受を紹介するという目標をもち、その達成に向けて自主的に取り組もうとする姿を期待する。

③ 目標を達成するためにつけるべき力

(i) 反復と変化を知覚・感受する力

(ii) (i)を基にして、楽曲全体を味わい、その味わいを、根拠をもって言葉で伝える力

(2) 教材観

本単元では、エドワード・エルガーが作曲した管弦楽のための行進曲集の中から《威風堂々 第一番》を教材として扱う。本教材は、複合三部形式(序奏—A—B—A—B—Coda)で構成されており、主部(A)や中間部(B)が繰り返されるという特徴がある。主部(A)や中間部(B)の繰り返しは、音楽の構成要素で示される反復や変化とみることができる。

反復とは楽曲のある一部分を繰り返すもの、変化とは反復とは不可分と解釈されている¹⁾。《威風堂々 第一番》の主部(A)は反復されているが、変化はほとんどみられない。このことから、本単元においては《威風堂々 第一番》の中間部(B)が反復と変化の該当箇所と捉えることとした。

《威風堂々 第一番》の中間部(B)は、楽曲終盤で反復されることによって、テクスチャ、強弱、音色等が著しく変化するという特徴がある。本楽曲が演奏会用に作曲された行進曲であるという文化的背景²⁾を踏まえ、《威風堂々 第一番》の中間部(B)の著しい変化によって、行進の様相の違いが感じ取れる楽曲と解釈できる。

(3) 児童・生徒観

第5学年では、反復と変化の変化を指導内容とした《きらきら星による 12 の変奏曲》(以降、きらきら星変奏曲と表記)の授業を実施した。

《きらきら星変奏曲》の音楽科授業では、主題、Var.VIII, Var.Xを使用して、主題が Var.VIII, Var.Xにおいて、反復して変化するというような変奏曲形式を学習した。具体的には、主題から変奏への強弱や調性、速度の変化を知覚して、それらが生み出す特質を感受して、変奏曲形式(反復と変化)を理解するという学習である。

本単元では、複合三部形式(序奏—A—B—A—B—Coda)を学習する上で、これまでの学習内容(形式、強弱、調性、速度、リズム等)を生かして、意欲的に反復と変化の理解へとつなげる姿がみられるのではないかと考える。加えて、本単元は指導内容の反復と変化と、文化的背景(国王の戴冠式のための行進曲)とを関連付けることによって、更なる音楽科の学びの深化が期待される。

(4) 指導観

「6. 指導にあたって」において、本単元目標を達成するためにつけるべき力として、(i) 音楽の構成要素(反復と変化)を知覚・感受する力、(ii) (i)を基にして、楽曲全体を味わい、その味わいを、根拠をもって言葉で伝える力を提示した。これらの力を育成するための手立てを以下に示す。

(i) 音楽の構成要素(反復と変化)を知覚・感受する力

児童が音楽の構成要素(反復と変化)に着目する手立てとして、《威風堂々 第一番》に合わせて行進(身体活動)をする場面を設定する。《威風堂々 第一番》に合わせて行進をさせることによって、中間部(B)の行進の仕方に違いがみられると考える。その行進の仕方の違いを問うことによって、《威風堂々 第一番》の中間部(B)の反復と変化では、何が反復して、どのように変化しているのか、というような問いが生起されると考える。生じた問いによって、主体的に《威風堂々 第一番》の中間部(B)の反復と変化の知覚・感受を紹介しようとする姿がみられるのではないかと考える。

(ii) (i)を基にして、楽曲全体を味わい、その味わいを、根拠を持って言葉で伝える力

《威風堂々 第一番》の中間部(B)の反復と変化については、音楽の構成要素の何がどのように変化しているのかを聴き取ることは難しいと想定される。この問題を解決する手立てとして、本単元では威風堂々のVR映像を使用することとした。VR映像とは360°の空間を視聴できる映像システムのことである。VR映像は、四つのカメラ視点(弦楽器群、木管楽器群、金管・打楽器群、オーケストラ全体)で収録されており、その視点を選択して視聴することができる。そして、四つのカメラ視点に対応したオーケストラの楽器の音色を聴くことができる。

このことからVR映像の特徴である視覚面が、聴覚面(反復と変化の知覚・感受)を補助することを通して、《威風堂々 第一番》の楽曲全体の味わいにつなげられるのではないかと考えた。

7. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
反復と変化について理解して、楽曲全体を味わい、その味わいを根拠をもって言葉で人に伝えることができる。	反復と変化を知覚し、それが生み出す特質を感受し、楽曲全体の味わいにつなげる。	反復と変化の働きに関心を持ち、意欲的に楽曲を聴く。

8. 単元の指導計画(全5時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	《威風堂々 第一番》を聴いて、行進することによって、楽曲の構成を大まかに理解する。文化的背景について知る。	楽曲の構成(序奏—A—B—A—B—Coda)についての理解を示している。	●			観察
2	《威風堂々 第一番》の反復と変化についての知覚・感受をワークシートに記入する。知覚したことの根拠を、VR映像を使って確かめる。	《威風堂々 第一番》の反復と変化を知覚・感受している。反復と変化という用語を知る。		●		ワークシート
3	グループで反復と変化の知覚・感受したことを紹介文の形でプレゼンテーションにまとめる。	反復と変化の知覚・感受を紹介文の形でプレゼンテーションにまとめている。	●	●	●	プレゼンテーション資料
4 【本時】	反復と変化を知覚・感受して、プレゼンテーションにまとめたことを中間発表する。	プレゼンテーションの発表をきいて、反復と変化についての理解を深めている。	●	●	●	ワークシート
5	反復と変化を知覚・感受して、プレゼンテーションにまとめたことを発表する。 反復と変化についてのアセスメントシートに答える。	《威風堂々 第一番》の反復と変化の知覚・感受をプレゼンテーションで発表している。 反復と変化についての理解を示している。	○	○	○	観察 プレゼンテーション資料 アセスメントシート

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

中間発表において、自他の音楽の聴き方の違いに触れることによって、主体的に反復と変化の知覚・感受を深めようとしている。

(2)本時の評価規準

- ・反復と変化の働きについて知覚・感受して理解している。(ア:知識及び技能)
- ・楽曲を知覚・感受しながら反復と変化の働きについて考え、味わったことを根拠をもって人に伝えている。(イ:思考力,判断力,表現力)
- ・反復と変化の働きに関心を持ち、意欲的に楽曲を聴く。(ウ:主体的に学習に取り組む態度)

(3)本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

①項目 主体的な人

②内容

これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に取り組む姿

(4)展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 五分	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返る。 ・ 本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 《威風堂々 第一番》の楽曲構成について振り返り、主部(A)と中間部(B)が反復と変化していることを大まかに確認する。 ・ プレゼンテーション作成方法を確認する。 ・ 本時のめあて(中間発表を通して、《威風堂々 第一番》のB部分がどのように反復して、変化しているのかを考えよう)を提示する。 	
展開 三十五分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表をすることを通して、反復と変化の知覚・感受を深める。 ・ 反復と変化の知覚・感受の深まりを、プレゼンテーションに反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽出グループの中間発表を通して、反復と変化の知覚と感受を関連付けながら、黒板に板書する。 ・ 反復と変化の知覚・感受を深める手立てとして、VR映像や楽譜等を必要に応じて提示する。 ・ 中間発表によって、新たに気づいたことや感じたことをプレゼンテーションに取り入れさせる。 	(ア)(イ)ワークシート (ウ)観察
まとめ 五分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習によって、プレゼンテーションの仕方が変化したグループを抽出して発表させる。 ・ 本時の振り返りを口頭で発表させる。 	(ア)(イ)(ウ)発言及び観察

(5) 準備物

Chromebook, タブレット, ヘッドフォン, スプレッター, 拡大楽譜, 電子黒板

10. 参考文献及び資料

- 1) 日本学校音楽教育実践学会編(2006)『生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム』東京書籍
 - 2) 音楽之友社編(1980)『最新名曲解説全集(第5巻) 管弦楽曲2』音楽乃友社
- ・ 小学校音楽科において VR 映像《威風堂々》の教材を用いた先行実践例は管見の限り見当たらなかった。ただし, VR 映像の先行実践としては, 大阪教育大学のホームページにて, いくつか紹介されている。そこでは, 小・中学校における先行実践が紹介されており, VR 映像を扱うことによって, 音楽科における児童・生徒の学習意欲の喚起, 個別最適な学びと協働的な学習の促進, VR 映像のもつ視覚面が聴覚面(楽曲の知覚・感受)を補助する等, ということが明らかにされてきている。URL: <https://www.osaka-kyoiku-music.com/vr/>
 - ・ 本研究実践では, 大阪教育大学シンフォニーオーケストラと株式会社アルファーコードにより作成された《威風堂々 第一番》を使用した。なお, VR 映像の編集, 使用, 公開については著作権者より承諾を得た。URL: <https://share.blinky.jp/s/NDM0Ng>

スマートフォンで開く
お手持ちのスマートフォン/タブレットで読み取る
か、Blinkyアプリ内のQRコード機能から読み取りをご利用ください。



8. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと, 新たな試みの視点などから目標を持ち, その達成に向けて自主的に粘り強く, 創造的に取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点などから目標を持ち, その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点などから目標を持ち, その達成に向けて自主的に取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと から目標を持ち, その達成に向けて進んで取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に物事を考え, 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 地域社会の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 学校の人たちの協力を取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え, 学級の人たちと力を合わせて取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として, 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し, その解決に向けて 取り組み, 振り返りながら, 創造的に追究 することができる。	自らの問題として, 身近なコミュニティ から課題を見出し, その解決に向けて 取り組み, 振り返りながら追究 することができる。	自らの問題として, 身の回り から課題を見出し, その解決に向けて 取り組み, 振り返り することができる。	自らの問題として, 身の回りの課題 に気づき, その解決に向けて 取り組み することができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴の姿勢 で接し, 多様性を尊重 しながら 相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。

これまでの経験や学んだこと, **試みの視点などから目標を持ち, その達成に向けて自主的に取り組むことができる。**